

■立候補の決意

私は現在、梅花高等学校で理科の非常勤講師をしています。私が理科の教師になったのは、小さい頃から自然が大好きで、自然の不思議さや、すばらしさを子どもたちに伝えたいと考えたからです。この30年以上の間、とにかく実験と考えることを重視した授業を行ってきました。

私が、最初に地球環境のことが気になりだしたのは高校生の時でした。その当時は、高度経済成長で工場煤煙や車の排気ガスによる大気汚染、また川や海へは工場廃液がそのまま流され、喘息や水俣病・イタイタイ病が人々を襲いました。（これと同じようなことが今中国で大規模に起こっています。）

公害列島日本から、工場煤煙の総量規制が強化され青空が戻ってきたときには、世界中で問題が起りつつありました。それを知ったのが、1987年にNHKが放映した「地球大紀行」です。その最終回のテーマは、「太陽系第三惑星46億年目の危機」。内容は、人類が文明の名の下にいかにか大量の森林を伐採し自然破壊を続けてきたか、また便利さ・快適さのためにいかにか膨大な量の化石燃料を使ってきたかを伝え、その結果地球環境が激変する可能性があることを警告するものでした。

そのときから私は地球環境に大変強い危機感を抱くようになりました。その思いを伝えようと、生徒に地球環境の現状を知らせるために「地球大紀行」のダイジェスト版を作り、毎年見てもらうようにしました。そして、少しでも多くの人が環境問題に関心を持ち、身近なことから取り組んでいけるように、全校でペットボトルの回収作業や使い捨てをなくすマイマイ運動（マイ箸・マイ水筒・マイバッグを使用する）を進めてきました。今は、さらに熱心な生徒を中心に「エコガールズ」を結成し、文化祭での環境展示やマイマイ運動の呼びかけを行ってもらっています。

地球温暖化による地球環境の悪化が危惧される中で、原発事故による放射能汚染の脅威にさらされることとなりました。原発は事故がおこれば甚大な被害をもたらすだけでなく、事故がなくても大量の核廃棄物を生み出すとともに膨大な熱を排出し海水を温めています。現在起っている異常気象の最大の原因の一つは海水温の上昇です。つまり、原発は、放射能汚染の脅威だけではなく、温暖化の脅威にも大いに関係しています。

今、求められているのは脱原発・脱温暖化を一刻も早く実現することです。そのためには、ライフスタイルの変更と再生可能エネルギーを爆発的に普及させることが必要です。緑の掲げる「2050年には再生可能エネルギーを100%へ」をもっともって早めて実現することが急務となっています。地熱発電を基盤にし、洋上風力発電・小水力発電・太陽光発電・バイオによる発電等々を最大限に利用すれば、技術大国で自然豊かな日本にとっては、短期間にドイツ以上のことができる可能性は大いにあります。（もちろん、最大限の節電や省エネ、スマートグリッドの活用等々に取り組むことも必要ですが）。このことを実現するためにあらゆることをやっていきたいと考えています。

そして、その実現のための大きな鍵の一つは教育にあると考えます。30数年の教師生活と20数年に及ぶ環境教育を行ってきたものとして、子どもたちが小さい頃から環境教育を始めることの大切さを痛感しています。環境最前線のドイツでも小さい頃から家庭や学校で環境教育が行われています。「自然に優しく」という環境教育は、「生命を大切にし、お互いに認め合いともによりよく生きる」ということにつながります。今、教育で問題になっている「いじめ」・「体罰」はその認識が欠如していることが一つの原因になっています。小さい頃から自然に接する機会を増やし、自然の不思議さやすばらしさを体験し、自然と共に生きようとする気持ちを育てることが「いじめ」をなくすことに大きく貢献するものになると確信します。子どもたちはもともと正義感にあふれています。それをうまく引き出すことができれば、環境問題だけではなく将来に対しても夢や希望がもてる社会を作り出す大きな力となるでしょう。私は、そのことに全力で取り組みたいと考えています。

私たちが理想とする社会は、「緑の党」結成宣言に謳われている社会であると確信しています。そのなかでも、産業に関して言えば、工業最優先ではなくて農林水産業を重視した第6次産業を発展させることが重要です。（ $1+2+3=6$ または $1\times 2\times 3=6$ ）つまり、一次産業・二次産業・三次産業を密接に結びつけて共に発展させる産業を作り出すことが求められています。それは地産地消をメインとした取り組みとなるために地域の活性化および雇用の拡大につながります。

そういう社会を展望しつつ、今すぐは現在社会の大問題である格差是正を前進させます。所得税の累進税率を高め（最高税率を過去最高の75%にまで引き上げる（8000万円以上の所得者に対して）、逆累進性の高い消費税を低くすることによって格差是正を大きくすすめます。

以上のような社会へ大きく踏み出せるように、緑の躍進目指して全力で奮闘する決意を表明致します。

具体的な行動としては、私の勤務先（梅花高等学校）が130年以上の伝統を持つ私学であることを大いに活用し、この間に私が在職中に送り出した1万名以上の卒業生とその保護者、および数万人の同窓生に広く支持を呼びかけます。（20年以上前から環境問題を訴えてきました。数年前には、梅花新聞において「梅花の環境大臣」として紹介されました。）また総合学園である梅花学園で20年以上評議委員に選ばれていたため、理事会・評議員会・大学・短大・高校・中学・幼稚園のあらゆる関係者とのつながりがあることを活かして支持を訴え、すべてを総合して数万の得票を目指します。その他、2006年から始めた mixi や2011年から始めた facebook を利用し、つながりを活かして大いに宣伝するならば必ずや「緑の党」の拡大に大きく貢献することができるであろうと確信しています。みなさん、共に頑張りましょう。

■政策（とくに関心の高い政策、実現したい政策など）

1. 即時脱原発と脱化石燃料で再生可能エネルギー100%の社会の早期実現

稼働中の原発を直ちに停止し、今後いっさいの原発の稼働をしない。また、直ちに原発廃炉作業に取りかかる。脱化石燃料で再生可能エネルギーへの転換を早める。そのために電力自由化・発送電分離を徹底する
上記のことに加えて、節電・ライフスタイルの変更に結びつけるため、節電給付と環境税を大胆に創設する。

2. 未来を担う子どもたちへの教育を重視し、教育予算を大幅に増額し、子どもたちの瞳が輝く教育を行う。

教育予算を大幅に増額し、学費の無償化を進めると共に、少人数教育と教員の増員を行う。

また、お互いの違いを認め合い、尊重しあえる人間関係を築けるような教育を行う。

環境教育を低学年から始め、自然とのふれあいの機会を増やし、自然・生命を守ることの大切さを知らせる。

一人一人が自分自身を十分に活かせるための力をつける教育を行う。

3. 税制改革により格差是正を大きくすすめる。

所得税の累進税率を高め（最高税率を過去最高の75%にまで引き上げる（8000万円以上の所得者に対して）、逆累進性の高い消費税を低くすることによって格差是正を大きくすすめる。（中・低所得者の税率は現在より低くする。）また、消費税から環境税へ重点を移す。

4. その他

- ・領土問題は、共有による平和的解決を図り武力衝突を避ける。
- ・軍事同盟である日米安保条約をなくし、基地を撤去し、アメリカとも対等平等な平和友好条約を結ぶ。
- ・小選挙区制を廃止し、一票の格差是正を行い、民意が正確に反映される選挙制度に改める。

■プロフィール

- 1952年 大阪市東成区に生まれる
- 1959年 大阪市立神路小学校（地域ソフトボールチーム所属。逆立ちが好きで毎日のように逆立ち歩き）
- 1965年 大阪市立相生中学校（数学部所属。鉄棒が好きで、休み時間はよく高鉄棒にぶらさがる）
- 1968年 大阪府立高津高等学校（卓球部所属。スモッグの日が多く、環境問題に関心を持つ）
- 1971年 大阪市立大学理学部物理学科（ソフトテニスクラブ所属。政治・経済・哲学に関心を持つ）
- 1976年 私立梅花高等学校理科教諭（ソフトテニス部・囲碁将棋部顧問）
- 1987年 梅花学園評議員に選出される
- 1994年 研究発表授業を開始（疑問を自分で調べ発表する授業）
- 1998年 選択科目「実験理科」を開設（毎回、興味深い実験を行い考察・レポートを重視する授業）
- 1999年 選択科目「環境」を開設（まず現状を知り、展示・見学等具体的に行動することを重視する授業）
全校によるペットボトル回収活動を開始（週1回、集まったものを全体で処理する）
- 2003年 全校生徒への話を年に6回から13回ほどを担当（主に環境問題を訴える）
- 2005年 大車輪への挑戦を始める（“やればできる”の実現を目指す）
- 2006年 「マイマイ運動（使い捨てをなくすため、マイ箸・マイ水筒・マイバッグ等の使用）」を開始
- 2010年 「エコガールズ」結成（マイマイ運動の推進グループを作成。地域に足を踏み出す）
- 2011年 フルマラソンに初挑戦（5時間53分完走）
- 2012年 私立梅花高等学校理科非常勤講師
11月末 「緑の大阪」・「緑の党」会員となる。健康状態は良好です。

■著名人とのつながり：具体的な応援計画

「トイレの神様」で有名な植村花菜さん：彼女が高校三年生の時に担任をしました。2010年に高校を訪問されたときに話すことができました。まだ、連絡はとっていませんが、応援を依頼したいと考えています。